

金沢市従労NEWS

組合設立:1946年 組合本部所在地:〒921-8026 石川県金沢市糸田新町1-30

Petit☆Drive♡お隣さ〜ん!! this time 富山県 射水市



お食事処 - 不二屋 (ふじや) -

- 場所: 富山県射水市三ヶ伊勢領2282-2
- 電話番号: (0766) 56-2557
- 定休日: 火曜日 (火曜が祝日の場合は翌日の水曜)
- 営業時間: 11時00分～15時00分 (夜の時間の営業は現在やっていない)
- 座席: カウンター席、小上がりの座敷席 (4人掛け・6人掛け)
- 駐車場: 店舗前 (車高に注意) および店舗向かいにもあり (約10～13台)



カツ丼

富山県射水市の海王丸パークと太閤山ランドのちょうど真ん中に位置する場所に、民家が立ち並ぶ住宅街の目立たない穏やかな通り沿いに「サラリーマン」「学生さん」「ご近所さん(常連客)」「ファミリー層」「自分のようなフラツとさん」等が、いつでも気軽に集う地元の繁盛店としての歴史を感じさせる店構えに思わず立ち止まってしまうお店!! 『お食事処〜不二屋〜』さんを御紹介させていただきます。(決して期待を裏切らない雰囲気♡ある店構え)

暖簾を潜ってお店に入り、店内に貼られたメニューの数々に先ず眼が行き、真っ先に思った感想が『井もの』には自信アリな感じが滲み出ている、どれも揚げ物中心の数々には食べる前からの期待感(満腹感)は絶大であり、メニュー表にも「人気のイチ押し!!」が断トツでカツ丼(名物)と表記されており、周りのお客さん達の注文を聞いてもテーブルに運ばれてくるものも一目瞭然(文句なし)ですね。他にも、天玉丼・唐揚げ丼・牡蠣フライ丼・海老フライ丼・特上(上)天井……なお不二屋丼なるものは、海老とホタテを使ったかき揚げの“フワツと感”が売りみたいです(次の機会には、是非とも食べたい一品であります!!)。この値段設定なら2品～3品を食べたいところですが……食べたい欲求よりも胃袋の大きさと年齢が邪魔をする☹️現実がありますよねえ。



唐揚げ定食

総評すると「油」づくしの「衣」タップリ系が多いけど、定食メニューも取り揃えており、味噌汁の代わりに「ミニうどん」もしくは「ミニそば」が付いてきて、また食べるに來くなる味&ボリューム感に対するお値段にはご満足を戴けることは間違いナシです☺️

わざわざ富山県まで行って『カツ丼』かあ〜って思われるかも!?ですが、長く続くお店には「何か人を惹きつける魅力」が隠されていると思いませんか☺️

これからの5月連休(ゴールデンウィーク)が過ぎた後にでも、ドライブついでに足を伸ばしてみても如何ですか? 気になった方は富山まで立ち寄って見て下さいね☺️ 梅雨☔が来る前に気分転換を!!

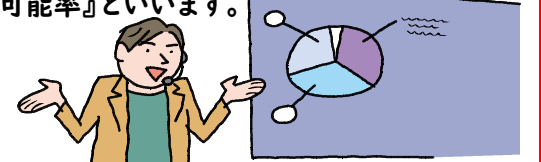
首都圏からも注目を浴びる☆『富山県』☆ 移住者の約70%が20代～30代を占める魅力ある環境!!

アップサイクルに取り組むことで『環境問題負荷低減効果』にも!!

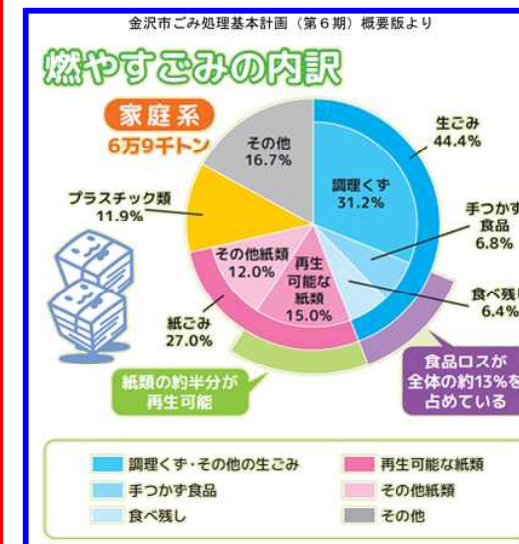
世界における『ごみ問題』は深刻な社会問題として認知されてきており、2015年9月の国連サミットで採択された「SDGs」でも、2016年から2030年の国際目標として17のゴール・169のターゲットにも含まれており、ごみの排出抑制は世界規模で今後は、今まで以上に廃棄物を処理する際にリサイクル率を意識した取り組みが強く求められます。

リサイクル率(リサイクル実行率)とは、実際にリサイクルされている割合(%)のことを指し、様々な構造や材料の工夫などにおけるリサイクルのしやすさについて評価および算出した割合は『リサイクル可能率』といいます。

$$\text{＜一般的リサイクル率算出方法＞} \\ (\text{消費重量}) \div (\text{再資源化重量}) \times 100 = \text{リサイクル率}(\%)$$



リサイクル率を上昇させる取り組みは法的にも整備されており、プラスチック容器に関するリサイクル率は「容器包装リサイクル法」等の整備により、近年は上昇をしています。しかしながら、環境省(H29年度)によれば焼却が8割、残る2割がリサイクルと埋立という状況となっており、この割合は10年前と全く変わっておらず、様々な品目に分別をしてもリサイクルは僅か2割程度でしかありません。この現状を打開するためにもリサイクル率上昇への取り組みは急務とされています。※ドイツ、スロベニア、オーストリア、オランダ、ベルギー、リトアニア、ルクセンブルクについては全て5割超。



近年、金沢市のごみ排出量もほぼ横ばい状態でしたが、平成30年2月に家庭ごみの指定ごみ袋収集制度(有料化)を導入したことにより、家庭系ごみの排出量は大きく減少しました。一方で、事業系ごみに関しては北陸新幹線開業の影響等により平成27年度まで増加傾向であったものの、その後は緩やかな減少傾向にありながらもほぼ横ばい状態です。今後も事業系ごみの減量化・資源化への取り組みを強化することが必要です。

しかしながら、金沢市民の「意識」が変わった事により他都市に比べ約3%も高い、ごみ減量化率:約17%を見れば、家庭ごみ有料化から5年で金沢市の焼却炉および埋立場の負荷を減らす事に直結し、昨今の大雪寒波の際にも町会での除雪対策支援や公民館・児童館等の運営支援などにも活用され、今後もその収益を様々な地域コミュニティの活性化等に充てることで運用し、循環型社会を構築する上での市民負担への公平化も図っていくものであります。

日本全国におけるごみ排出方法にもリサイクル率が上がらない要因があるようにも思えます。例えば『曜日指定』つまり、対象となるごみを出せる日が各々決められている点にあります。日本に住んでいれば当たり前のことの様に、ごみ出しの曜日が厳密に指定されているため、間違った日に出してしまうと違反物として収集されず、時には町会(地域)住民や管理会社等から注意を受けることもあり、粗大(多量)ごみを回収してもらう際は、事前にリサイクル(受付)センター等に連絡(処理券)が必要だったり、大きさによって処理料金が変わったりなど、煩わしいこれらが更なるごみ出しへの嫌悪感・難易度・無関心を高めているように思えます。特に、慣れていない地域(町)で新生活を始めた人達にとって、各地域での様々な『ゴミ出しルール』に適應するのは難しく、場合によって「ご近所トラブル」の原因にも繋がる可能性があります。

不要な資源に新たな命を吹き込む「アップサイクル」が今、注目されています。捨ててしまえば、ただのごみでも、工夫次第で利益を生み出す可能性を秘めています。資源の量には限りがあるにもかかわらず、人々の消費は今も激増しており、需要と供給がアンバランスになる事態が多発しているのが今の世界の現状です。この現状を打開しようと、既に世界の様々な企業や団体がアップサイクルを始めており、捨てるはずだったものを活用して収益に繋げています。SDGsの目標12にある『持続可能な消費と生産のパターンを確保する』は、より少ないものでより多くのものを作ることを目指し、生活の質を向上させるために掲げられました。アップサイクルとは「今あるものを利用して別の用途のものに作り替え、付加価値を与えること」を意味する言葉であり、温暖化対策のみならず、ごみの廃棄費用を抑えるのにも有効な手段と言えます。資源の計画的かつ持続可能な方法で使用・活用する意識を高めていきましょう!!

世界的にも廃棄物の削減や有効活用の取り組みが進んでいるなか、自分達に何が出来るのか?

